

1. (2)

パーキンソン病で施設入所を検討した女性

- ▶ Oさん（女性 81歳）
- ▶ せっかちで落ち着きのない性格
- ▶ 小柄で細身
- ▶ 子供は3人（長女・次女・長男）
- ▶ 独居（同一敷地内に長男夫婦在住）
- ▶ パーキンソン病（ヤールⅢ） 2007年発症
〇〇〇〇病院 神経内科Dr 2か月半おき通院



小規模多機能型居宅介護授業所 レジデンス寺嶋

生活歴

■昭和17年

〇〇町に8人兄弟の末っ子として出生。

■昭和36年

結婚、3人の子供に恵まれる。

■昭和51年

夫と土木業を自営で始め、65歳まで現場に出かけていた。

外で作業する事が多く、ずっと肌は日焼けしていた。

朝から晩まで働き、家事や仕事に忙しく過ごす。

生活歴②

■平成19年頃

パーキンソン病を発症。仕事を辞めて、畑仕事や家事に専念する。

■平成29年2月

介護保険を申請

■平成29年9月

パーキンソン病が悪化し、動けないことが多くなる。

家族を呼ぶことが増えた為、介護保険サービスの利用を開始。

居宅介護支援事業所RのYケアマネージャーが担当。

利用した介護保険サービス

■訪問介護

入浴介助や家事の手伝い、突然動けなくなった時の緊急対応等。

■訪問リハビリ

筋力を維持するためのリハビリと、転倒に配慮した生活指導等

■福祉用具

手すり、介護用ベッド等

■通所リハビリ

令和2年1月～4月まで利用、動きが悪くなり通えなくなる。

■老人保健施設

お泊りサービス。家族の負担を軽減するため、自宅以外で過ごす

病気による変化

■令和4年8月

パーキンソン病が進行し、身体の揺れが酷くなる。

日常生活に影響が出始め、歩けない、食べれない等のできないことが目立つ。

掃除ができず、トイレの失敗も多く、本人は自宅での生活を困難に感じ始める。

併せて認知機能の低下もみられ、暗くなるまで草取りを続け、近所の人に自宅まで連れてきてもらう事が増える。お薬の飲み忘れ、幻覚等の言動もみられるようになった。時間の感覚も曖昧になり、家族やヘルパーの連絡も増えて対応が困難になる。

病気の進行における本人の意向

本人、家族共に一度は施設の入所を考える。

しかし、病気が原因で入居できる施設が無い。

加えて、本人・家族から自宅での生活を続けたいと希望がある。

本人：まだ家で畑作業がしたい

家族：病気は進行してるが、動けない訳じゃない。

動ける時に、自分の好きなことをさせたい。

けど、夜中は家に誰もいないし、一人にさせておくのは心配

今まで利用してきたサービスを見直す理由

■ 訪問介護

決められた時間にしか基本的には訪問できない。
緊急時に呼ぶことも可能だが、状況によっては訪問介護が来れない可能性もある。
パーキンソン病により、緊急時の要請が増えると対応しきれなくなる。緊急で呼ばれても、到着時には本人が動ける状態に回復してた事もあった。

■ ショートステイ

2か月先から利用の予約を取るため、緊急時に利用することが困難。拘束時間も長く、利用日から翌日の夕方まで施設にとどまることになる。動ける時に活動がしたい本人のニーズに合わない。

■ デイサービス

日中の動ける時間に拘束されたくないのと、家事や畑作業がリハビリに繋がるため本人のニーズに合わない。

以上の理由から、日中は自宅で過ごし、夜は施設で過ごせるサービスをYケアマネージャーが計画する。Yケアマネージャーから、本人・家族に対して小規模多機能サービスの利用について提案する。

小規模多機能サービスの利用について

■令和4年9月

Yケアマネージャーから小規模多機能の利用について相談有

■令和4年11月

小規模多機能レジデンス寺嶋を利用開始

■小規模多機能レジデンス寺嶋で利用しているサービス

通い：週2回（入浴後、午前中に帰宅）

お泊り：毎日（夕方～翌朝）

訪問：自宅への送迎時（デイの準備・服薬管理・買い物）

小規模多機能サービスを利用してからの生活

日中は自宅で過ごし、畑仕事や家事（掃除・洗濯・調理）を自分のペースでおこなう。

夜は小規模多機能型レジデンス寺嶋で泊まる。

週2回、デイサービスで入浴する。

入浴後、午前中には自宅に帰れる。大体、朝10時過ぎには自宅に帰る。

帰路の道中、買い物が必要であればスーパー・薬局等にも立ち寄る。

店内は送迎職員が付き添う。

※基本的には家族様に買い物をお願いするが、独居の場合はお手伝いすることもある。

ご自宅に送った際には、昼食後のお薬をお薬カレンダーにセットして退席する。

夕方17時頃にはお迎えに行き、自宅を出発する。

お迎えの際には、薬の飲み忘れと荷物の用意を確認する。

まとめ

日中は自宅、夜中は施設とメリハリのある生活が送れている。夕方になると、施設のお迎えが来るので、本人も時間を意識できるようになった。

パーキンソン病のお薬を忘れずに飲むことで、動けない時間が減ってきた。動ける時間が増える事で、家事や畑作業ができ、家族に助けを呼ぶことが減った。

動けなくても、施設の職員が決まった時間に尋ねに来るので、本人が緊急の連絡をせずに待つようになった。

家族も呼ばれる回数が減り、負担が軽減している。夜中は施設に居るので、精神的なゆとりもできた。本人が自宅でやりたいことができている。

ご視聴ありがとうございました